



沸る血汐に
打ち仰ぐ
(校歌より)

CONTENTS

P2 ▶ 卒業生・修了生に贈る言葉

P4 ▶ 卒業生クラス紹介

P9 ▶ 修了生クラス紹介

P11 ▶ 学生の将来と進路

P13 ▶ 活躍する仲間

P19 ▶ 研修旅行

P21 ▶ 校外研修

P23 ▶ 文化体験日

P24 ▶ 退職にあたって

P25 ▶ 学校通信

卒業生・修了生に贈る言葉

卒業生・修了生に贈る言葉
～生涯研鑽の徒たれ～

校長 長谷川 章



春光やわらぐこの季節、卒業ならびに修了の日を迎えられた皆さんに、心からお祝いを申し上げます。皆さんは、「優れた実践力と豊かな人間性、創造性を備え、社会の多様な発展に寄与できる技術者を育成する」という本校の基本理念のもと、たゆまぬ研鑽を重ねて参りました。日々の講義や実験、そして研究活動を通じて修得された幅広い教養と専門知識は、皆さんの生涯を支える揺るぎない礎となるものです。しかし、真の意味での学びとは、この節目を機に、新たなステージにおいて幕を開けるものに他なりません。

現代社会に目を向ければ、生成AIをはじめとした新たなテクノロジーが、我々の想像を絶する速度で社会構造を塗り替えています。生成AIは膨大な情報を蓄積し、迅速に知を提示する優れた道具ですが、これからの技術者に求められるのは、提示された情報を峻別し、真に必要なものを選び取って活用する「使いこなす力」です。そのために皆さんに磨き続けてほしいのが「問いを立てる力」です。「何が効率的か」という問い以上に、「何が人々の幸福に繋がるのか」「どのような新しい価値を生み出すべきか」を深く思索し、具現化していく力、これこそが、本校で培った工学的な知性と豊かな人間性が結実したものであり、皆さんの進むべき方向を指し示す不変の道標となります。幅広い知識をもとに豊かな発想力を備えた技術者としての真の研鑽は、卒業・修了を機にこれから始まると言えるでしょう。

現在、私たちは地政学的な緊張の高まり、深刻な環境問題、急速なDX化など、正解のない複雑な課題の荒波の中に立たされています。このような時代を生き抜くためには、「地図ではなくコンパスを持つ」ことが肝要です。変化の激しい現代に

おいて、既成の道を示す「地図」は、書き換えられる前にその役割を終えることがあります。しかし、自らの志す方向を示す「コンパス」があれば、未知の領域へも勇気を持って歩を進めることができます。福井高専で培った専門性、独創性、人間性、そして国際性という四つの指針は、皆さんの生涯を導く「揺るぎないコンパス」となるはずです。変化に惑わされずテクノロジーの進展を的確に見通す「専門性」、既成概念に囚われず解決策を見出す「独創性」、他者への共感と倫理観を重んじる「人間性」、そして多様な価値観を認め世界と繋がる「国際性」、これらを統合し、客観的な事実に基づいて正しく判断し、社会の発展に寄与していくために、どうか生涯を通じて学び続けてください。

故事に「学問に王道なし」という言葉があります。地道な努力の積み重ねこそが、非凡な成果を生みます。本校での学びを基礎としつつ、広大な世界に向けて常に謙虚な学びの姿勢を保ち、自分自身を磨き上げてください。その真摯な姿勢こそが、新たな価値を創造する力の源泉となります。

福井の地から雄飛していく皆さんは、本校の誇りです。皆さんは、多様な出会いから学び、互いの違いを尊重し合う寛容さを持ち、挑戦の歩みを止めることなく突き進んでください。諸君が力強く踏み出すその一歩は、必ずや後進の希望へと繋がっていくはずです。新しい世界を切り開く先駆者としての皆さんの前途が、輝かしいものであることを心より祈念いたします。

卒業生・修了生に贈る言葉

地域とともに歩んだ
学びを胸に教育後援会会長
稲 裕樹

福井工業高等専門学校卒業生・修了生の皆さん、ご卒業・ご修了、誠におめでとうございます。皆さんがこの福井の地で積み重ねてきた学びの日々は、専門知識や技術の修得にとどまらず、地域と向き合い、社会の現場を知る貴重な時間であったと思います。実験や実習、研究活動、さらには地域企業や人々との関わりを通して、課題を自分事として捉え、解決に向けて粘り強く取り組む姿勢が培われてきました。

また、学びの道のりは決して一人きりのものではありませんでした。ともに切磋琢磨した仲間、指導に尽力された教職員、温かく見守ってくださった地域の方々の支えがあってこそ、今日の日を迎えることができたのだと思います。多様な価値観に触れ、対話を重ねながら答えを探した経験は、これから社会に出ても、皆さんの判断と行動を支える大きな力となるでしょう。

社会は今、大きな転換期を迎えています。その中で、地域に根差し、現場で鍛えられた実践力を持つ高専生への期待は、これまで以上に高まっています。福井で育まれた技術と誠実さを礎に、失敗を恐れず挑戦し続けてください。たとえ進む場所が福井を離れることがあっても、ここで培った視点と志は、必ず皆さんの原点として生き続けます。皆さん一人ひとりの歩みが、地域の未来を支え、新たな価値を生み出す力となることを信じています。その歩みが次の世代へと確かに受け継がれていくことを期待しています。皆さんの挑戦に心から敬意を表し、ここに祝意を表します。母校と地域は、これからも皆さんを誇りに思い、歩みを見守り続けます。前途に幸多からんことを心より祈念いたします。

皆さんと福井高専の
未来のために進和会会長
野嶋 祐記

卒業生、修了生の皆さん、この度は誠におめでとうございます。進和会を代表いたしまして、心からお慶び申し上げます。

進和会は、福井高専に在籍する学生、OB、OG、現役・退職教職員からなる組織で、会員間の交流促進や、福井高専の発展を目的に活動しています。クラス活動や、全国大会に出場する部活動等への補助も行っています。また、毎年11月ごろに開催している名刺交換会では、職場や年代を超えた交流もできます。福井高専を離れる皆さんを生涯にわたって応援する会ですので、ぜひご活用ください。

さて、目まぐるしく技術が進化する一方、社会全体で人材不足となっている現代において、専門的な知識を早くから学び、実践力も身に着けた高専生は、社会から高く評価されています。進和会会員からも、そのようなお話をよく聞きます。しかし、少子高齢化が進み、高校、大学、そして高専も入学者確保に苦勞されている状況です。

これからの皆さんの活躍は、社会での福井高専の存在感を示すものともなります。今までは、その存在感だけで十分に福井高専をアピールできていましたが、これからは、ぜひご自身でも福井高専の良さを周りに「発信」して行ってください。試験や課題に苦勞したこれまでの経験が活かされるフィールドに立ちみると、高専の良さを再認識する場面がきっとあるはずですよ。その思いを周りの方に伝えて行ってほしいのです。それは、多くの中学生が福井高専を目指し、より活力ある母校を育てていくことにつながります。母校が高く評価されることは、卒業生にとって誇らしいものです。

最後に、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

卒業生クラス紹介

機械工学科



村中語録

機械工学科5年担任 村中 貴幸

5年生の皆さん、高専での教育課程を修了し、卒業という節目を迎えられること、心から御祝い申し上げます。おめでとう。

さて、担任モノマネで私の口癖をいろいろ真似されましたが、今年の研究室には1つの格言が張り出されました。「やってみせ、言って聞かせて、させてみて、褒めてやらねば人は動かじ。」第二次世界大戦中、連合艦隊長官を務められた山本五十六氏の言葉です。私が何気なく口にしたこの言葉が研究室のいたるところに張ってあります。人の上に立つ上司の心得と解釈していたのですが、これから社会に羽ばたこうとする君たち若鳥の胸を打ったのは何だったのでしょうか？卒業を迎える君たちに贈る言葉として、この格言を再解釈すると、

やってみせ……メモを取れ。

言って聞かせて……理解したところで相槌を打て。
させてみて……そのチャンスを生かせ。

褒めてやらねば……素直に喜べ。

人は動かじ……先ずは動こうよ。

就職する人、進学する人、進路はそれぞれですが、これから沢山の人と出会い、お付き合いが生まれると思います。そんな時、この解釈を実行すれば、可愛がってもらえます。みなさんの今後が幸多からんことを祈念しています。

ちなみに「……人は動かじ。」までを第1節とすると、この格言は第3節まであります。興味ある人は検索してみてください。

次の5年間

機械工学科5年代表 石川 翔月

高専に入学した頃の私は、入学後の未来へ期待を膨らませる一方で、「大人になるのはまだ先のことだ」という気持ちもありました。しかし、そんな気持ちを置き去りにして時間はあっという間に過ぎてしまいました。

5年という時間は長いようで短いものだと感じます。そこで、私がこれからの人生で意識していきたいことがあります。まずは、「5年前に想像していた将来の自分と、今の自分にはどのような違いがあるか」ということです。私の場合、ロボコンに参加して自分のやりたいことができた一方で、失敗や後悔も多くあります。私と同じように、「5年間でもっとこうしておけばよかった」という思いを持つ人もいるかもしれません。

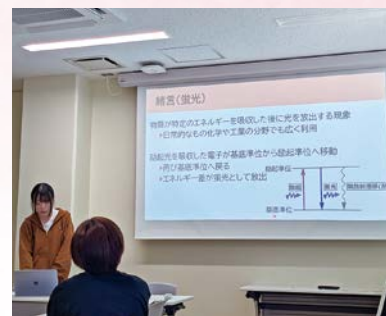
しかし、反省を述べるばかりでは今後の方針を決めることはできません。そこで、「5年後はどのような自分になっていたか」ということを意識していきたいと思います。私たちは年齢的にはすでに大人です。将来の自分を想像し、そこから逆算してやるべきことを設定して、実行して、積み重ねていくことが、これからの人生で大切になってくるでしょう。

私達はそれぞれ異なる道へと進んでいきます。クラスの皆は、次の5年間でどのように成長していくのでしょうか。お互いに成長した姿で再会できることを楽しみにしています。これからも、お互いに頑張っていきましょう！

卒業生クラス紹介



電気電子工学科



残心

電気電子工学科5年担任 丸山 晃生

卒業生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業を心よりお喜び申し上げます。

皆さんが高専受験を目指していた中学3年時、世界はパンデミックに襲われました。期待と不安が入り混じる日々を過ごしたことでしょう。その後の情報技術や人工知能の発展は目覚ましく、学び方も多様化してきました。しかし、技術者教育には対面での学びが欠かせません。高専入学後は、感染対策をとりながら、実験や実習を通して対面の学びを続け、技術や知識を習得してきました。

さて、武道で大切にされる教えに「残心」という言葉があります。技を終えた後も油断せず、相手や周囲への意識を途切れさせない精神です。高専で得た技術や知識は、卒業という節目で完結するものではありません。その技術が社会にどう影響するのか、誰を幸せにするのか。卒業という一つの区切りを迎え、皆さんに大切にしてほしい心の一つです。常にその先を見据える「残心」の心を持って、実直に技術者として成長してください。

困難な状況下で鍛錬を積んだ皆さんの精神は、強く鍛えられています。激動の時代を走り抜いた誇りを胸に、常に「残心」の心を持って、より良い未来を実現してってください。皆さんの活躍を心から応援しています。

高専5年間をここに思い出し

電気電子工学科5年代表 北嶋 祥弥

振り返ると、期待と不安が入り混じっていた高専5年前。入学当初の私は、周囲に馴染めるかという不安を打ち消そうと、新入生歓迎会で芸能人の物まねをして空気を和ませようと思いました。行事のたびに熱くなり、喧嘩腰の議論になった弁論大会や、容赦なくボールを投げ合ったドッジボール大会、国語の授業で鼻濁音の発声に挑んだこと、そして先生方の愉快的なギャグや、コロナ禍でマスク越しに過ごした日々。その一つひとつが大切な思い出です。

学年が進むにつれ、学びはより深く、実践的になりました。2年時の校外研修では音響関係や眼鏡製作の企業を見学しました。3年時には、授業の一環で蒲生発電所に行き、研修旅行で関西のセラミック工場、九州のロボット製造工場・トイレ製造工場・製鉄所を訪問しました。4年時のインターンシップでは不慣れなスーツに身を包み、企業や大学で活動する体験をしました。

最終学年では、進路という大きな壁を前に、自ら行動することが多かった一年でした。卒業研究という専門的な探究を経て、私たちは大きく成長しました。ここで培った技術と人間関係、そして大量のレポートを乗り越えた精神力を糧に、これからも自身のスキルを磨き続けていきます。

卒業生クラス紹介



電子情報工学科



石ころを磨きつづける

電子情報工学科5年担任 堀井 直宏

これから生きていく中で、あなたのことを完璧にわかってくれる人は誰もいません。ですが、自分ではわからないあなたの後ろ姿をみている人がたくさんいることに気づくでしょう。あなたは自分の期待と現実とのギャップに苦しむことがあるかもしれませんが、自分を信じ続ければ、そのギャップはいつのまにかなくなっていることに気づくでしょう。愛する人との別れもあるかもしれません。ですが、それはあなたの塞ぐべき穴を教えてくれるでしょう。あなたは嫉妬や妬みのドロドロとした心が自分にもあることに気づくかもしれません。ですが、それに気づけたのであれば、今までよりも優しさや強さを手にいれることができるでしょう。

あなたの未来につながる宝石のような出会いや気づきは、最初は価値のない石ころのように見えるかもしれません。手に取りながら捨てたことに後悔するかもしれません。ですが、経験を積みながら、あきらめずに磨くべき石ころを探して下さい。必ず小さな輝きが見つかります。それを見極めて、手に包んで、あなたが家族や友達や先生にそうしてもらったように、時間をかけて大事に磨いてください。

時には、あなた自身が石ころのように見えてしまうときがあるかもしれません。ですが、磨き続ける手を止めないでください。必ず、必ず、あなたは光ります。

これから先の、みんなが磨く新しい石を見るのが楽しみでなりません。みんなの担任になれたことに心から感謝します。卒業おめでとうございます。

高専生活を振り返って

電子情報工学科5年副代表 井美 颯大

入学したときは5年間という長い高専生活を考えていましたが、気が付くとあっという間に卒業の日が目前に迫っています。教室に行くといつもと変わらない顔ぶれとあいさつを交わし、何気ない日常を過ごしていました。そんな当たり前の日常がもうすぐ過去のものになろうとしています。

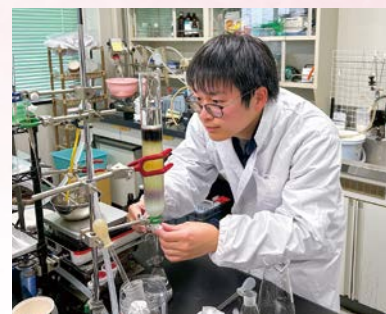
寂しくないといえば嘘になりますが別々の道に進む友人と再会し、近況報告や思い出話に花を咲かせる日が楽しみで仕方ありません。これまでの長いようで短い高専生活を振り返ると何よりも先に友人や先生との思い出が浮かび上がってきます。確かに終わりが見えない課題や多すぎるテストの科目など大変なことも少なくありませんでした。そのような困難に直面するたび、仲間と徹夜で作業したり、わからないことを教えあったりすることで乗り越えたことは今でも大切な思い出です。初めは「技術」を学ぶために入学した高専でしたが、卒業する今、私の手元にある一番の財産は「人とのつながり」です。

最後になりますが、これまで支えてくださった5EIのみんな、先輩、後輩、部活の仲間、先生方、大変お世話になりました。皆様のおかげで最高の高専生活を送ることができました。ありがとうございました。

卒業生クラス紹介



物質工学科



できる人・できた人

物質工学科5年担任 古谷 昌大

「教養と専門的能力を身に付けるとともに、思いやりの心を育む。」年度初めのHRで毎回伝えてきたクラス目標です。

卒業証書は、準学士相当の「教養と専門的能力」を持つ証です。幾多のテスト、課題、レポート……を乗り越えながら身に付けてきましたね。勉強の記憶は頭の片隅には必ず残っており、今後必要となったときにひょいと出てきてあなたを助けてくれます。成績が良ければそれだけ「できる人」なのですが、満点＝完璧に非ず。たとえば、化学工学の点数が100点だったからといって、化学工学のすべてがわかったことにはならないのです。成績の良し悪しに関わらず、この先も謙虚に勉強し続けましょう。

一方、「思いやりの心」は点数化できません。しかし、「教養と専門的能力」と同等、いや、それ以上に大事なものです。相手を尊重して話を聞く、挨拶する、感謝する、他人のために行動する……自分の学生生活を振り返って思い当たることが多ければ、それだけ「できた人」になったということ。私は皆さんの担任をしながら、確かにその成長を見届けましたよ。今後も少しずつ育んでいきましょう。

皆さんそれぞれが「できる人・できた人」像を追い求めつつ、それぞれの幸せな生き方を見つけ歩いていくことを、心から願っています。

高専での日々

物質工学科5年代表 松浦 奏登

高専に入学したときには、期待と不安と共に長い高専生活が始まるなと思っていました。しかし、高専での生活はあっという間に過ぎていき、もう少しで卒業となってしまいました。

高専で過ごした日々を振り返ってみると、楽しかったことも大変だったことも両方ありました。そんな思い出の中で最も印象に残っていることは、レポートです。毎週、何らかのレポートを書き、締め切りに追われているような気がしていました。正直、面倒くさいなと思ったこともあり、何でもかんでもやっているのだろうかと思ってしまうこともありました。しかし、レポートでわからないところは、友達に教えてもらったり、友達がわからないところは、教えてあげたりすることができました。そのような何気ない時間がとても楽しく、大変だったことも高専での大切な思い出となり、充実した高専生活となりました。5年間、ありがとうございました。

高専での生活は卒業まであっという間に過ぎていきます。そのため、最後に卒業生の言葉として、在校生の皆さんには高専での一日一日を大切に過ごして欲しいと思います。そして、卒業するときに振り返ると良い高専生活だったと思えるように過ごして欲しいと思います。

卒業生クラス紹介



環境都市工学科



楽しむところ

環境都市工学科5年担任 田安 正茂

環境都市工学科29期の卒業を迎えたみなさま、卒業おめでとうございます。また、本クラスをご指導いただいた教職員の方々におかれましては、誠にありがとうございました。

みなさんのクラスは、3年生と4年生前期までは芹川先生が担任でした。4年生後期と5年生は私が担任を務めました。学科長との兼任だったので、私の対応を不十分に感じることもあったかと思いますが、私自身は概ね合格点だったと自己を肯定しています。クラスのみなさんと接する期間は1年半と短い間でしたが、個性豊かなメンバーと楽しく学ぶことができました。ありがとうございます。

みなさんは4月から進学先や就職先など新たな環境で日々を過ごすこととなります。それぞれ自分の役割を楽しみましょう。新しい環境での勉強や仕事、新しい仲間作り、すべては楽しむことでよい方向に転がっていきます。私は50歳を超えてようやく「楽しむところ」が鍛えられてきたように感じています。日々の仕事やいろいろな活動に関わる中で「いまを楽しむところ」が持てれば、心や体への負担はとても小さく、よい結果につながります。自分のポテンシャルと可能性を信じて、楽しみながらチャレンジしていきましょう。

最高の同志へ

環境都市工学科5年代表 松田 力紀

早くも20歳になり、振り返れば、15歳でこの門をくぐってから五年間。長いようであつという間だったこの歳月は、私の人生において最も濃密な時間でした。

高度な専門科目に懊悩し、終わりの見えない課題に追われた毎日、過去問から突然変異した高難度の定期試験。それらを乗り越えられたのは、単に個人の努力があったからではなく、同じ壁にぶち当たり、同じ苦勞を分かち合えたクラスメイトがいたからです。感謝してもしきれません。ありがとう。高専で得た最大の恩恵は、知識だけでなく、「この5年間を同じ仲間と戦い抜いた」という確かな自信です。

「一緒に売店行こーや」と、20歳近くにもなって1人では売店に行けず、誰かを誘わないと何も買えない幼かった頃を思い返してみれば、今では考えられないほどに成長し、いつしか背中を預け合える最高の同志になっていました。当たり前だった日常が思い出に変わる瞬間は少し寂しいものですが、それは私たちが次のステージへ進む準備が整った証拠でもあると思います。進むフィールドは違えど、この学校で培った知識としぶとさ、根性を武器に頑張っていきましょう。各々の人生に幸あれ！

そして、私たちを見守り、時に厳しく、時に優しく導いてくださった先生方に心より感謝を申し上げます。以上。

修了生クラス紹介



生産システム工学専攻

修了生に贈る言葉

生産システム工学専攻主任 千徳 英介

専攻科修了おめでとうございます。

とくに機械系の学生のみなさんは、本科時代から担任として成長を間近で見ただけに、修了を迎えられたことを大変うれしく思います。

修了生のみなさんとは、1年次の「創造デザイン演習」で関わりました。この授業では、各系の学生が混合でグループを組み、ビジネスアイデアの創出や企業から提示された課題の解決に取り組みました。自主的に3D CADや3Dプリンタを活用して試作品を製作したり、実際のアプリに近い形でユーザーインターフェースを提案したりと、グループ内で生まれたアイデアを一つにまとめ上げ、各自がそれぞれの力を発揮して形にしていく姿に、さすが専攻科生だと感心しました。まさに、これからの時代に求められる、分野の異なる知識同士を結びつけ、新しい課題解決の方法を生み出す力を、みなさんは備えています。

一方で、特別研究に2年間取り組み、多くの学生が学会発表を行ったという成果は、与えられたテーマを深く掘り下げ、世界でまだ誰も知らない新たな知見に到達したことを示しています。

専攻科で、知識のネットワークの幅を広げるとともに、深く探究する力を身につけました。あとは「奥行き」です。これからも専攻科で学んだ姿勢を継続し、大きなエンジニアになってください。

7年間の思い出

生産システム工学専攻2年代表 瀨 歩空

7年間を振り返り、一番に思い出すのは、野球部でのとある1日と、友人との何気ない日常です。野球部では、引退がかかった大会の直前、コロナの影響で次の日から部活動が禁止となった日に、じゃあ今日の夜中までなら野球ができる！と言って、どこにぶつければよいかわからない悔しさや、やるせない気持ちを全力でぶつけながら練習をして、皆でハイタッチをしたことが印象的で大切な1日です。専攻科に入った後は、クラスが違った子とも仲良くなり、毎日のように放課後集まって、ゲームをしたのも最高に楽しかったです。一生の付き合いになっていくような友人と出会えたことも大きな財産です。

遊びすぎだから研究や勉強をもっと頑張れよと言われそうな日々を送っていましたが、メリハリと明確な目標設定を大切にして、勉強と遊び、どちらにも全力を注ぐことができたと思っています。

多くの先生方、職員方、そして家族の支えがあって充実した生活を送ることができました。この場を借りて感謝申し上げます。福井高専で得た知識、経験を活かし、福井高専の名に恥じない姿をお見せできるように頑張ります。

修了生クラス紹介



環境システム工学専攻

自分で薪を割れ、二重で温まる

環境システム工学専攻主任 辻野 和彦

修了生のみなさん、専攻科での充実した2年間で過ごされ、今は、晴れやかな気持ちになっていることと思います。本科と併せて福井高専での7年間の学業生活、お疲れ様でした。

専攻科では、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを通じて、自分に無いアイデアへの気づき、相乗効果から新しいアイデアの創出等が多くあったと思います。また、必ずしも専門家ではない方にも、判り易い説明が求められる場面もあったことでしょう。専攻科でのこのような経験は、将来、必ず役に立ちます。

自動車産業で革命を起こしたヘンリーフォード氏は、「自分で薪を割れ、二重で温まる」という言葉を残しています。私は、この言葉が好きです。仕事で何かのプロジェクトに取り組むとき、おそらく、みなさんはリーダーシップを求められる存在になるでしょう。人に任せる部分もあるかもしれませんが、リーダーが努力を怠ると人間関係に摩擦が生じてスムーズに進まなくなるかもしれません。成功を収めるためには、自分の努力も必要です。そのような姿勢で仕事に臨んでいると、自分の思っている以上の成果を得ることにつながります。

福井高専の本科・専攻科で学んだ経験を活かし、社会に貢献する人材になって下さい。修了、おめでとうございます。

高専生活を振り返って

環境システム工学専攻2年代表 中村 綾乃

専攻科での2年間は、本科での学びを基盤に、より発展した内容に向き合った期間でした。振り返ればあっという間の時間でしたが、自分自身と向き合い、充実した日々を過ごせたと感じています。

専攻科では特別な行事は多くありませんでしたが、日々の授業や課題の一つひとつに対して取り組んできた積み重ねが、今の自分につながっていると実感しています。特に印象に残っているのは、グループワークです。本科ではあまり接することのなかった他系の学生と意見を交わしながら課題に取り組み、専攻科ならではの学びの広がりを実感できました。自分にはなかった新しい視点や、異なる分野の考え方に触れることで、物事への取り組み方の幅を大きく広げることができたと思います。

福井高専で過ごした7年間の学びや経験は、これからの新しい生活や仕事の中でも、きっと自分を助けてくれるはずで。修了後はそれぞれが異なる道へ進むこととなりますが、この場所で得た知識や繋がり、これからの歩みにおいて大切な礎になると思います。

最後になりますが、この7年間、多くの方々にお世話になりました。日々の授業や学生生活だけでなく、進路相談や研究活動など、さまざまな場面で温かくご指導くださった先生方、そして支えてくださったすべての方々に、心より感謝申し上げます。

学生の将来と進路

令和7年度 進路内定状況

キャリア支援室長 佐々和洋

令和7年度の本校の就職希望者は、本科で約53%、専攻科では約69%、全体では約55%でした。これはここ数年とほぼ同様の数値です。その内、県内企業への内定者は、本科で約30%、専攻科で約54%でした。ありがたいことに今年度も非常に多くの企業様から求人をしていただき、求人倍率はおおよそ77倍です。特に県内企業様から熱心な求人をいただいております、県外からの求人も非常に増えています。

近年、日本経済は緩やかな回復基調ではありますが、少子高齢化などによる構造的な人手不足は一段と深刻化しているとの報道をよく耳にします。これから就職活動を迎える学生の皆さんには、現状に甘えることなく、早い段階からの企業研究や自己分析・自己研鑽を続けてください。

進学については、本科では専攻科への進学が29名、大学等への編入学が58名となり、昨年度と比較して専攻科は約3割増、編入学は約1割増と、進学意欲の高まりが見られます。また、専攻科から大学院へ進学した学生は11名と、昨年度の約2

倍に増え、より高度な学びへ挑戦する姿勢が広がっています。

進学や編入学を目指す場合は、普段の授業に加えて、基礎学力の積み上げや専門分野の理解が不可欠です。受験準備も早ければ早いほど有利になります。ぜひ目標を早い段階で明確にし、計画的な勉強と対策を進めてください。

就職活動・受験対策ともに、その第一歩は体調管理です。日常生活のリズムを整え、心身のコンディションを維持することが、学習効率を高め、将来の選択肢を広げることに繋がります。皆さん一人ひとりが、視野を広く持ち、自らの将来をしっかりと見据え、納得のいく進路選択ができるよう、努力を積み重ねていってください。

最後に、本校のキャリア教育にご理解とご尽力いただいている関係教職員および保護者のみなさまに厚く御礼申し上げます。

令和7年度 進路内定状況

令和8年1月25日現在

学 科	区 分	卒業・修了 予定者数		進 学 希望者数		内 定 者 数						未 定 者 数		就 職 希望者数		内 定 者 数				未 定 者 数		そ の 他			
						大 学 ・ 大 学 院		専 攻 科		そ の 他 進 学				就 職 希望者数		県 内		県 外							
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
本 科	機 械 工 学 科	33	4	13	1	7	0	6	1	0	0	0	0	20	3	7	0	13	3	0	0	0	0	0	0
	電 気 電 子 工 学 科	29	5	15	1	12	1	3	0	0	0	0	0	14	4	6	1	8	3	0	0	0	0	0	0
	電 子 情 報 工 学 科	35	8	18	3	12	1	6	2	0	0	0	0	16	5	6	0	10	5	0	0	1	0	0	0
	物 質 工 学 科	23	18	17	4	11	3	6	1	0	0	0	0	6	13	2	3	3	10	1	0	0	0	0	1
	環 境 都 市 工 学 科	24	11	9	6	8	3	1	3	0	0	0	0	15	4	5	0	10	4	0	0	0	0	0	1
	小 計	144	46	72	15	50	8	22	7	0	0	0	0	71	29	26	4	44	25	1	0	1	0	1	2
専 攻 科	生 産 シ ス テ ム 工 学 専 攻	15	0	2	0	2	0						0	0	13	0	10	0	3	0	0	0	0	0	0
	環 境 シ ス テ ム 工 学 専 攻	14	6	6	3	6	3						0	0	8	3	1	2	7	1	0	0	0	0	0
	小 計	29	6	8	3	8	3						0	0	21	3	11	2	10	1	0	0	0	0	0
	合 計	173	52	80	18	58	11	22	7	0	0	0	0	92	32	37	6	54	26	1	0	1	0	1	2

令和7年度 大学編入学試験・高専専攻科入学試験合格状況

令和8年1月25日現在

大学等	学部等	機械工学科		電気電子工学科		電子情報工学科		物質工学科		環境都市工学科		合計									
		推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力								
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
室蘭工業大学	理工学部										1		1								
千葉大学	工学部			1						1			1	1							
東京農工大学	工学部		2	1				1	1				2	1	2						
長岡技術科学大学	工学部					1	1	3	3		1	2	5	3	3						
山梨大学	工学部						1							1							
富山大学	工学部			1										1							
金沢大学	理工学域	1		1										2							
福井大学	工学部	1		1	1	1	1			1	1		4	3							
岐阜大学	工学部								1					1							
豊橋技術科学大学	工学部	1	2	6		2	1	4	1	1	3	1	16	1	4	1					
京都工芸繊維大学	工芸科学部			1										1							
大阪大学	基礎工学部						1								1						
	工学部								1						1						
島根大学	総合理工学部								1					1							
九州大学	経済学部					1								1							
福井高専専攻科	生産システム工学専攻	6		1	2	1	5	2	1					13	2	2	1				
	環境システム工学専攻									6	1		3	1	6	4	1				
計		9	4	1	13	1	2	10	3	8	15	3	2	1	6	6	3	53	13	19	2

令和7年度 大学院入学試験合格状況

令和8年1月25日現在

大学院	専攻	生産システム工学専攻		環境システム工学専攻		合計					
		推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力				
		男	女	男	女	男	女	男	女		
東北大学大学院	情報科学研究科	1						1			
金沢大学大学院	自然科学研究科					2		2			
北陸先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科						1				1
福井大学大学院	工学研究科					1	2	1	2		
京都工芸繊維大学大学院	工芸科学研究科	1						1			
神戸大学大学院	科学技術イノベーション研究科					1	1	1	1		
九州工業大学大学院	生命体工学研究科							1			
計		2				5	3	1	7	3	1

活躍する仲間

■ 第36回全国高等学校アマチュア無線コンテストに参加して

アマチュア無線研究会 電気電子工学科3年 野村 梨帆

私たちアマチュア無線研究会は、旧電波同好会のコールサイン「JA9YDB」を引き継いで活動しています。新たな社団局として歩み始めて早9年。発足時や部に昇格した時の諸先輩方は既に卒業されましたが、今の活動があるのはこれまでの先輩方の積み重ねがあっただけだと感じています。今、こうして部員一同、楽しく活動できていることを誇らしく、また、とてもうれしく思います。

全国高等学校アマチュア無線コンテストには1～3年生のみが参加できます。今回参加した第36回コンテストは、私にとって最後の機会となりました。電話で相手局と会話をする交信 (SSB)、モールス信号を使った交信 (CW)、この2種類のモードをうまく使い分けて、国内各局と3時間連続して交信を行いました。この日、前半はなかなかつながらず、不安が募りました。しかし、最後まで諦めず、落ち着いて、皆で協力して交信を行った結果、期待していたおりの交信数を稼ぐことができました。そして、無事に高校団体7MHz部門で8連覇を達成することができました。部長として安心するとてもとてもうれしい気持ちでいっぱいです。今までの知識や経験を後輩に伝えていき、私自身、新たな目標を掲げ、来年度からの活動も楽しんでいこうと思います。



■ デザイン賞を受賞して (Aチーム)

福井高専ロボット部 A チーム 機械工学科3年 西野 寛瑛

今回の研究は、「第37回 アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2025 グレート・ハイ・ゲート」に出場するためのロボット製作を目的として行いました。本ロボットでは、競技課題を確実に達成するための機構や制御性能だけでなく、観客や審査員に親しみを持ってもらえることもより重視しました。そこで、可愛いトナカイとサンタさんをモチーフとした華やかな装飾を施し、全体のデザインに統一感を持たせました。さらに、配色や形状の工夫に加え、LEDを用いたライトアップを取り入れることで、競技会場でもひととき目を引く外観を実現しました。これらの工夫が評価され、ロボットの外観やコンセプトに対してデザイン賞を受賞することができました。本研究を通して、ロボット競技においては技術力だけでなく、見た目や演出も重要な要素であることを強く実感しました。来年は全国大会出場とデザイン賞三連覇を目標に、さらなる改良を重ねながらロボット製作に励んでいきます。



■ プロコンに参加して

電子情報工学科4年 新河戸 絢仁

私たちは2025年10月11日、12日に開催された全国高等専門学校プログラミングコンテスト第36回松江大会の自由部門に出場しました。

プロコンに向けて、「Guitarist」というギター初心者に向けたギター練習システムを作成しました。このシステムでは、LEDを実装したギターネックとアプリケーションを用いてギターネックを見るだけでコードや単音練習をすることができるというものです。

プロコンは書類審査による予選と本選の2つに分かれ、本選では実際に動くかどうかのデモンストレーション審査や、プレゼンテーションによる審査が行われ、最終的に私たちのチームは敢闘賞を獲得しました。

グループで長期間かけて作品を制作するという経験は初めてであり、大会の前日まで作品の調整など、予定していた通りに行かず様々なトラブルが起きましたが、無事に作品を完成させることができ、グループワークの難しさなどを経験することができました。また、本選では、他高専のレベルの高い作品を知り実際に体験をすることで、新しいアイデアや技術を知ることができました。

今回のプロコンを通して学んだことをこれからの研究活動等に役立てていきたいです。



■ デザコンに参加して

専攻科 生産システム工学専攻1年 増田 光佑

私たちは全国高等専門学校デザインコンペティションにおいて、使用環境や目的に応じて「聴き方」を選択できる新しいイヤホン「Bloom」を提案しました。本製品は専攻科のグループ活動から誕生したもので、開閉機構により、オープンイヤホン型イヤホンとカナル型イヤホンに自在に切り替えられる点が最大の特徴です。

制作過程では、機械系のみならず、電気・電子情報・物質・環境系といった専門分野の異なる学生と協力しました。多角的な視点から社会課題を捉え、製品の在り方を深く議論できたことは、単なるものづくり以上の大きな学びとなりました。また、全国の高専生との技術交流は、自分たちのアイデアを客観的に見つめ直し、技術的な妥当性やデザインの可能性を再認識する貴重な機会となりました。

この経験を通じて、技術的な制約とユーザーの利便性をいかに融合させるかという、設計の本質に触れることができました。今後はこの広い視野を活かし、単なる機能の追求に留まらず、「社会に何が求められているか」を常に意識した、価値ある製品設計・デザインに取り組んでいきたいと考えています。



令和7年度優秀学生賞受賞者一覧

国立高等専門学校機構
理事長一般表彰

国立高等専門学校機構から、国際的な学術雑誌等に査読付き論文が掲載された優秀な学生を表彰

電気電子工学科5年 谷口 夏穂

一般社団法人日本機械学会
畠山賞

大学・短大・高専の機械系学科卒業生で人格、学業ともに優秀な学生を表彰

機械工学科5年 石川 翔月

公益社団法人
計測自動制御学会優秀学生賞

大学・短大・高専の機械系学科卒業生で人格、学業ともに優秀な学生を表彰

機械工学科5年 CHAN DING KHAI

公益社団法人計測自動制御学会
北陸支部優秀学生賞

大学・短大・高専の機械系学科卒業生で、計測、制御及びシステムに関する学術技術分野を学ぶ北陸地区の優秀な学生を表彰

機械工学科5年 大味 修也

一般社団法人
電気学会北陸支部優秀学生賞

電気学会主催の大会に参加し、各大学高専から成績優秀な学生を表彰

電気電子工学科5年 木谷 駿允

公益社団法人日本電気技術者協会
北陸支部優良卒業生

高専及び高校の電気科課程の優良卒業生(就職内定者対象)を表彰

電気電子工学科5年 谷口 夏穂

一般社団法人映像情報メディア学会
北陸支部優秀学生賞

各大学高専から成績優秀な学生を表彰

電気電子工学科5年 齊藤 翼

一般社団法人電子情報通信学会
北陸支部優秀学生賞

電子情報通信関係大学・高専で、学業と研究業績が優れた学生を表彰

電子情報工学科5年 筧 椋祐

一般社団法人電子情報通信学会
北陸支部学生優秀論文発表賞

電気・情報関係学会北陸支部連合大会発表論文の中から優秀な論文発表に対して表彰

電子情報工学科5年 齊藤 磨央

一般社団法人情報処理学会
北陸支部優秀学生賞

情報処理関係の大学及び高専等において、学業成績が優秀であり、かつ将来の活躍が期待される学生を表彰

電子情報工学科5年 水野 弘汰

公益社団法人日本化学会
近畿支部支部長賞

近畿、北陸地区高専の化学系課程の優良卒業生を表彰(各校2名を上限)

物質工学科5年 音羽 矢可

公益社団法人日本化学会
近畿支部支部長賞

近畿、北陸地区高専の化学系課程の優良卒業生を表彰(各校2名を上限)

物質工学科5年 細井 遥和

公益社団法人日本分析化学会
中部支部優秀高専学生賞

中部地区高専の分析化学系課程の優良卒業生を表彰

物質工学科5年 伊部 心鞠



全国高専土木学会近藤賞

全国高専土木系学科卒業生で、人格、学業ともに優れた学生を表彰

環境都市工学科5年 三田村 美菜



日本原子力学会フェロー賞

規定条件を満たす学業優秀な者

環境システム工学専攻2年

岡田 ひなた



令和7年度 ガリレオコンテスト採択結果一覧

学年	学科	代表学生	テーマ	指導教員
3	環境都市工学科	玉村 真優	インフォーマルコミュニケーション空間の創出	樋口 直也
1	機械工学科	樹芝 咲	「生物」と「技術」を合体した「水の浄化システム」の開発	松野 敏英

令和7年度 ガリレオの卵コンテスト一覧

学年	学科	参加学生	テーマ
1	電子情報工学科	木下 遥登	マルチプロペラの不思議
1	電気電子工学科	前田 琥珀	最強の習得法
1	電子情報工学科	吉村 奏志朗	ノックカバー・スピン
1	環境都市工学科	反保 遙都	髪の毛の伸びるスピード
1	機械工学科	野田 昂希	ペットボトルに隠された見えない工夫
1	機械工学科	牧田 功暉	コスパ最強のギター弦
1	環境都市工学科	松下 玉磨輝	種が持つ自然界のデザインの探求
1	電気電子工学科	森山 瑛士郎	非騒音
1	機械工学科	吉田 ほのむ	タイヤの摩耗の原因と対策
1	物質工学科	松下 真城	Arduino で非接触型温度計

令和7年度 ガリレオコンテスト概要報告

■ インフォーマルコミュニケーション空間の創出

環境都市工学科3年 玉村 真優

福井高専では、ロボコン、プロコン、デザコン等をはじめ様々なコンテストやイベントに参加しています。しかし、これらは同じ学科内や学年内で完結してしまうものがほとんどです。私たちは、この学科や学年を超えた意見交換により新たな発想や技術を生み出す可能性があると考えました。インフォーマルコミュニケーション、所謂雑談は今まで、負のイメージが強くありました。しかし近年、距離が縮まる、ストレス発散、アイデアが生まれる、などの観点から注目されています。

そこで私たちはこれを促すべく廊下などに設置できるベンチ及び机を作成しました。参加者全員で同様のベンチを作成した後3人程度の班に分け各自で新たに別の机椅子を作成するために動きました。私の班では半円形の机を作成しました。廊下にフィットする形で、半円のため自然と距離も近くなりコミュニケーションも深められます。多くのトラブルにも直面しましたが形にすることができました。0から1を作る難しさを実感し、自身の成長にも繋がりました。既製品ではなく自ら作ることで、設置する場所に合わせたサイズ感や傘を立てかける、資料を広げるなど必要な機能に応じた工夫も凝らせ、妥協しない良いものができたと感じています。

今回は環境都市工学科生のみでの活動でしたが、他学科との協力でより良いものが出来ると可能性も感じられました。この経験を生かし、より良いものづくりに取り組んでいきたいです。

■ ガリレオコンテストで小型無線装置に挑戦

専攻科環境システム工学専攻2年 増田 悠雅

私たちは、温度をリアルタイムに遠隔監視するために、温度センサーを搭載した小型無線装置の作成に取り組みました。最初は、作成したい装置のイメージは出来ていても、実際に作成するとなると、何から手を付けてよいか全く分からない状態でした。無線通信、ブレッドボード、アナログセンサー、デジタルセンサー、Python（パイソン）……知らない用語や分からない部品ばかり。インターネットで調べたり解説本を読んだりすることで、分からなかったことが少しずつ理解できるようになりました。次に、実際に小型無線装置を作成するために必要な部品や材料を購入して、組み立ててみました。組み立てをはじめると、今までに気が付かなかった新しい疑問点がいくつも生まれました。解説本や説明書の通りに組み立てているのに、なぜか装置が思うように動かないことは何度もありました。小型無線装置を完成できた今では、装置に必要な部品や配線や Python について分かっているので1つ1つの工程は簡単ですが、最初に装置を組み立てている頃には1つの工程に何時間も試行錯誤することもありました。ガリレオコンテストを経験して、実際に手を動かすことの大切さ、挑戦することの面白さを実感しました。読者のみなさんもガリレオコンテストに挑戦してみてください。

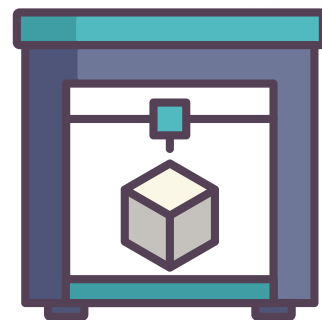
令和7年度 ガリレオの卵コンテスト概要報告

■ ガリレオの卵コンテストに参加して

電子情報工学科1年 吉村 奏志朗

6月、福井高専で行われる2年目のガリレオの卵コンテストがスタートした。私は今回、ノックカバーが回転する現象について考察することを目的に探究を行った。最初の「ファシリテーターアワー」では、ファシリテーターの先輩学生の方や先生方に相談し、ノックカバーに似たモデルを3Dプリンターで製作し、回転する動きを比較することで、この現象を探究することにした。その後、10月に行われる中間発表までの間に、参考になりそうな現象の調査を行い、3Dプリント用のモデルを設計した。中間発表では、高専祭にてポスター展示を行った。ポスターを作成する中で、調査結果をもとにこの現象について仮説を立てるとともに、成果発表に向けた課題の見直しを行った。12月の成果発表では、1分間のショートプレゼンテーションとA0版ポスターを用いた発表を行った。私の探究では、実際に3Dプリントしたモデルを用いて分かりやすく説明することを心がけた。

私は今回のガリレオの卵コンテストに参加し、探究の進め方や分かりやすいポスターの作り方など、これまで経験したことのない多くのことを学んだ。最終的に、成果発表では、探究内容をまとめ、自信をもって発表することができた。このコンテストで得た経験は、今後多くの探究や発表を経験していく私にとって、大きな意味をもつものだった。



ミニ・ビブリオバトル

■ 本から学んだ人生

物質工学科3年 廣瀬 祐翔

この度、ビブリオバトルのほうに参加をさせていただき、ありがたくも最優秀賞をいただきました。これは私にとって非常にうれしいことでした。そして、せっかくの機会であると考え私がこれまでの短い人生で、どれほど本に助けられたのかを振り返ることにしました。

私が振り返ってまず思うのは、これに助けられたという1冊はないのです。どちらかといえばいろいろなジャンルを読み、知見を深める手伝いをしてくれたなと感じます。その中で特に感じるのは周りの人よりも文学を書くのはうまくなったなと感じます。そう思った根拠としましては、校友会誌である青樹に3年間で2回も掲載していただきました。

そして、その文章を作成する際、すらすらと書けたのに対し、周りの人が苦戦しているのを見て、私は文章を書くのが得意なのだと感じました。

ほかにも、漢字を読む能力もほかの人より強いなと感じました。これも本を読んでいた賜物だと感じています。

考え方にも本は影響を与えてくれたと思います。これに関しては私の大好きな星新一のショートショートを読んだ影響で、突拍子もないことを思いつく能力はほかの人以上にあると考えています。

本は小さなころの成長を支えてくれた私の栄養でした。これからも本とともに人生を歩んでいきたいと思っています。



■ 第3回 ミニ・ビブリオバトルが開催されました

図書館事務室 学生課情報サービス係

図書館では、本との新たな出会いを楽しみ、読書の楽しさを再確認できるよう、「福井高専読書週間」を設定しています。関連イベントとして、11月13日(木)に「ミニ・ビブリオバトル」を開催しました。

ビブリオバトルとは、発表者が本を紹介し、投票で一番読みたい本を決める書評会です。公式ルールでの紹介時間は5分間ですが、本校では「ミニ・ビブリオバトル」として3分間に設定しています。短時間で本の魅力を伝えるため、プレゼンテーション力の向上も期待できます。

今回の発表者は、本科2～4年の学生計4名。自分が辛い時期を支えてくれた本や、読む年代や時代背景によって感じ方が異なる本などを、経験談を交えて熱く語ってくれました。質疑応答では、時にジェスチャーを交えて回答する姿が見られ、教職員・学生の間を越えて、会場全体で本を通じた対話が生まれていました。

全国学校図書館協議会が行った「第69回学校読書調査」(2024)によると、2024年5月1か月間の平均読書冊数(高校生)は1.7冊、0冊は半数近い48.3%だったそうです。本は映像やSNSと違い、頭の中で場面や人物を想像する必要があり、創造性や問題解決力につながる効果が期待できると言われますが、堅いことは言わずに、気軽にご来館くださいね。お待ちしております。

研修旅行

■ 研修旅行での学びについて

機械工学科3年 平木 理久

私たち機械工学科は研修旅行で4社の企業を見学しました。その中でも、特に印象に残っている企業が2社あります。

まず1社目は、日本製鉄株式会社（八幡地区工場）です。工場では実際の業務を見学し、授業で学んだ熱間圧延工程を目の当たりにしました。高専で学んでいる内容が、将来社会に出てから必要とされる重要な知識であることを改めて実感しました。2社目は、西日本旅客鉄道株式会社（博多総合車両所）です。ここでは、車両の検査が一つひとつ徹底して行われており、わずかなミスも許されない体制が整備されていました。このような厳密な品質管理が、私たちの安全な生活を支えているのだと強く感じました。見学を通して、現在受講している「機械工作実習」においても、製作物の寸法確認や機械の動作確認など、ミスを防ぐために常に気を引き締めて取り組まなければならないという意識がより高まりました。

最後に、この研修旅行を通して、これまで明確に思い描けていなかった「高専卒業後の自分の姿」を、以前より具体的に想像できるようになりました。この経験を活かし、今後は自分が目指すエンジニア像について、より深く考えていきたいです。



■ 一度限りの研修旅行

電気電子工学科3年 白崎 太一

5年間の高専生活で1、2位を争うほどのイベント、研修旅行。期待と緊張を心にしまいながらバスに乗り込んでいった。

企業訪問では初日にデンソー様、二日目に豊橋技科大様、浜松ホトニクス様に伺うことができた。デンソー様と浜松ホトニクス様では共に電子デバイスを生業とする企業様ではあったものの、特色や業務内容が全く異なっていた。こういったことは実際に聞いたり見たりしなければ知ることは難しいため、この研修旅行で知ることができてとても有難かった。

だがそれ以上に印象に残るのは、やはり各地の観光だろう。私たちは3日目に江ノ島やシーパラダイスに行き、それぞれ思い思いに回った。特にシーパラダイスでは4時間ほど見て回れたため数えきれないほどの思い出と写真があることだろう。私も超絶苦手なジェットコースターに2連続で乗せられたことは忘れてたくても忘れられないだろう。

4日目の午後からは各自自主研修へと向かっていった。少人数だからこそ行ける場所やできること、学べることも多くあった。

普段ならば気軽に行けない場所に向かえる機会だからこそ後悔のない選択をすることが大切な行事であると感じた。



研修旅行

■ 研修旅行に関して

電子情報工学科3年 吉川 洸希

全体研修旅行では、株式会社エヌユーエスやチームラボ株式会社が特に印象に残りました。エヌユーエスでは、VR体験やエンジニアの方との交流をメインに説明して下さったおかげで、研修旅行ではありましたがとても楽しめました。チームラボでは「ボーダレス」という話が印象に残っています。国や地域に関係なく様々な人がつながりあえるようなもの（ボーダレス）を作りたいとおっしゃっていました。この考えにとっても惹かれました。僕たちはどうしてもグループや壁を作りたがると思います。これによるメリットもあると思いますが、ほかの国や地域の人の文化が受け入れられにくい（伝わりにくい）というデメリットもあると思います。このことを聞いた後で、ミュージアムを実際に見学すると作成した人の思いが伝わった気がしてとてもよかったです。

さらに、東京大学生産技術研究所では最先端（まだ未開発の技術）の少しを見せてもらいました。試作場はさまざまな形に金属を加工する機械がたくさんあり、金属の加工方法などが知れたので良かったです。

以上の経験を来年度のインターシップの参考にしたいと思います。



■ 私たちの研修旅行

物質工学科3年 山岸 真憂

私たちは、北海道を中心とした研修旅行を行いました。

1日目は大阪有機化学工業金沢工場様で、整髪料の原料や粘着剤など、私たちの暮らしを支える製品の製造・開発工程を見学させていただきました。有機化学が社会において重要な役割を果たしていることを改めて実感しました。その後、小松空港で飛行機に乗りました。上空の景色を楽しんでいるうちに、あっという間に新千歳空港に到着しました。

2日目は北海道コカ・コーラボトリングと雪印メグミルク札幌工場を訪れました。コカ・コーラボトリング様では、コーヒー豆かすを再利用した石けん作りを体験させていただき、SDGsやアップサイクルについて学びました。雪印メグミルク様では、酪農や牛乳の製造工程、品質管理について見学させていただきました。

3日目は小樽と北海道大学を訪れ、小樽では北海道ならではの食や街並みを楽しみました。北海道大学ではキャンパス内の広さに驚きました。

北海道で過ごした4日間はとても楽しい思い出になりました。この研修旅行が充実したものになったのは、先生方や見学先の企業の皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。今回得た経験を、今後の進路選択や人生に生かしていきたいと思います。



研修旅行

■ 研修旅行の思い出

環境都市工学科3年 玉村 真優

全体研修で私たちは天ヶ瀬ダム、明石海峡大橋、阪神高速震災資料保管庫、ノエビアスタジアム神戸、一条工務店、鹿島建設にて見学させていただきました。

天ヶ瀬ダムや明石海峡大橋では土木建造物の壮さに圧倒されました。特に明石海峡大橋では橋梁の内部を間近で見学でき、非常に貴重な経験となりました。阪神高速震災資料保管庫には阪神・淡路大震災で倒壊した部材が展示されていました。私たちが授業で習っている構造力学やコンクリートの配合設計などが実際の被害にどう影響を与えるのか実感させられました。一条工務店では、実験施設を見せていただきました。家1つ建てるのにも多くの工夫や配慮があり、技術の高さを感じました。マイホームを建てる時の選択肢も増えました。鹿島建設ではビルの新築工事を見せていただきました。初めて見る地下工事や、想像以上に分業化された施工体制に驚きました。

インフラ管理やハウスメーカーの営業、開発、施工屋さんなど、全体研修を通して様々な職種に触れることができ、将来について考える良いきっかけとなりました。真剣に向き合っていきたいです。高専生活最高の思い出ができました。



校外研修

■ 校外研修を通して

物質工学科2年 櫻井 雅

校外研修では、田中化学研究所と Panasonic インダストリー株式会社を見学しました。どちらの会社でも、普段の授業だけでは知ることのできない現場の技術や仕事の雰囲気を体感でき、とても貴重な経験になりました。

田中化学研究所は、事前学習するまでどのような会社か知らなかったのですが、福井にある大きな電池関連（二次電池に使われている正極材の製造）の企業だと知り、たいへん驚きました。品質管理の部屋では、実際に使ったことのある実験器具が多く並んでいて、学校で学んでいることが実際の仕事に繋がっていることを実感しました。

Panasonic インダストリー株式会社は、誰もが知る大手企業ということで、実際に訪問できること自体がすごいと感じました。抵抗器を作る工程を見学したとき、機械の動きの正確さに感動しました。また、福井高専出身の社員さんたちからは、学生時代の体験や入社のかきかけなど、私たちにとって身近で今後の参考になる話をたくさん聞くことができました。

今回の研修を通して、普段の学びが将来の仕事にどうつながっていくのかを実感し、自分の進路を考える良い機会になりました。現場でしか感じられない空気を体験でき、貴重な時間になりました。



校外研修

■ 校外研修で学んだこと

機械工学科2年 江原 大登

私は、この校外研修で、機械についての知識をたくさん増やすことができました。サカセ化学工業株式会社では、開発、製造、販売それぞれの分野で、マシニングセンタなどの機械をうまく使用しお客様のニーズに答えるという企業のこだわりを学びました。また、株式会社 TOP では、モーターを製造する工程を、一貫生産体制で行っているため、品質の良いものをつくることができている、すごいと思いました。そのため、一貫生産体制は、自社の技術や工程に柔軟に対応することができ、よりよい、開発、製造ができることを学びました。

この校外研修で学んだことを活かして、今後は授業での実習を丁寧に組み込んでいこうと思います。また、それぞれの分野にそれぞれのもを対応させるということも学んだので、今後はチームで何かをするときはみんなの得意な分野を活かしていきたいです。



令和7年度 第2学年校外研修先一覧

研修日	学科	研修先	引率者
10月29日(水)	機械工学科	サカセ化学工業株式会社	山田 哲也
		株式会社 TOP	千徳 英介
	電気電子工学科	株式会社鯖江工業所	中谷内 悠
		株式会社鯖江村田製作所	小松 丈紘
	電子情報工学科	セーレン株式会社	藤田 卓郎
		岩崎工業株式会社	小越 咲子
	物質工学科	株式会社田中化学研究所	森 貞
		パナソニックインダストリー株式会社	後反 克典
	環境都市工学科	株式会社辻広組	松井 一洋
		田中建設株式会社	津野 佑規



文化体験日

■ 文化体験日について

F2 (電子情報工学科1年) 笠松 駿介

F2の文化体験では金沢を訪れました。私のグループが最初に行った金沢城では、その広大な敷地と城を支える石垣の迫力に圧倒されました。写真と実物とでは迫力が異なり、重機もなかった時代にどうやって重い石をいくつも積み重ねることができたのか不思議に思いました。

次に伝統的な街並みが続く東茶屋街に向かいました。辺りを見渡せば過去の建築をそのまま残した伝統あふれる和菓子屋やお土産屋さんがありました。金沢の都会の雰囲気が漂う中で、タイムスリップでもしたかのような体験ができました。休息のために立ち寄った和菓子屋では素敵な出会いがありました。私の席の隣に大柄な外国人が座っていました。何を思ったのかその時、私は喋りかけてみようと思いました。しかし、緊張のあまり、カタコトの英語となってしまいました。それでも自然と会話が弾み、しだいに打ち解けて話げできたように思います。言葉が完璧でなくても伝えようとする熱意があれば思いは通じると実感しました。

この一日を通して金沢の歴史に触れただけでなく、国際色豊かな金沢を体験することができました。この記事を読んだ人が、金沢の文化や異文化交流に興味を持ってくれるとうれしく思います。



■ 文化体験を通じて

F4 (環境都市工学科1年) 谷口 楓

F4クラスは、文化体験日に「ラポーゼかわだ」でバーベキューを行いました。

バーベキューには費用もかかることから、私たちは高専祭で露店を出し、その利益で費用を賄うことにしました。利益が出るかどうか不安でしたが、クラスメイトと協力して売上が目標額を超えることができました。

バーベキュー当日は各々でマシュマロやお菓子も持ち寄りました。お肉の後に食べたお菓子は格別でした。自然の中でクラス全員と食べたご飯は、忘れられない味となりました。

バーベキューの後は近くの広場で遊んだりお風呂に入ったりする学生もいました。私は友達と鬼ごっこやだるまさんが転んだをしました。普段見ることのない友人等の表情が見られて楽しいひとときを過ごしました。

文化体験日の費用の捻出のために高専祭で露店を出し、文化体験をクラスみんなで楽しめたことでクラスの仲が深まりました。



退職にあたって



退職にあたって

電子情報工学科 青山 義弘

平成4年、30歳になる年に福井高専に着任して以来、34年間に渡り教育に携わってきたことは私にとって大切な経験でした。企業の研究開発の現場から教育の場へ移る際には戸惑いもありましたが、教職員の皆様の支えと、学生たちの学ぶ姿勢に助けられ、今日まで務めることができました。学生が社会へ羽ばたいていく姿を見たり、成長した卒業生が先輩として母校に戻り、挨拶に来たり後輩に助言したりする姿に触れるたび、高専教育の意義を実感してきました。

近年は学びの環境が大きく変化し、以前より余裕が少なくなったように感じますが、学生たちの自由な発想と実践的な学びを重んじる高専の役割は、ますます重要だと考えています。

長年にわたり支えてくださった教職員の皆様、そして未来を担う在校生の皆さんのご健勝と、福井工業高等専門学校のさらなる発展を心よりお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。



退職の挨拶

電子情報工学科 波多 浩昭

今年度で退職の電子情報工学科の波多浩昭と申します。7年前まで東京でエンジニアとして会社員をやっていましたが、教育の世界を覗いてみたくなり、本校の教員として着任しました。福井県は初めて住む地でしたが、同学科の青山先生、斉藤先生をはじめとする同僚の先生方に温かく迎え入れていただき、また福井の住みやすさからあっという間の楽しい7年間を過ごさせていただきました。これも、ことあるごとに支えていただいた福井高専の教職員の皆様のおかげと感謝の念に尽きません。4月からいったん実家の千葉県に戻る

予定です。そのため改組後の新しい福井高専の姿を間近にみることは叶いませんが、今後の福井高専の発展と皆さまの今後のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。



終わりになき旅

一般科目教室 森 貞

今年度の高専祭メインステージ。「まだまだ、もりさだしの旅も続きますので、最後にこの曲を贈りたいと思います。」のトークに続いて始まったMr. Childrenのあの名曲。今年度で定年退職を迎える今の私の心境そのものでした。

1988年に奉職し、若かりし頃は、〈学生 First〉を信条に、がむしゃらに突っ走ってきた（時には、管理職に盾突くこともあった）『福井高専の暴れん坊』の私が、今日までやってこられたのは、すばらしい学生諸君と信頼できる同僚の助けがあったからこそと心から感謝しています。今まで、本当に有難うございました。

ところで、心残りがいくつかあります。学級担任として1年生クラスのグランドスラムを達成できませんでした（F1だけが残ってしまいました）。『校内「歌える」翻訳コンテスト開催』と『バンド「モーリーズ」のメインステージ出演』はともに9回に留まりました。幸い、定年退職後も嘱託教員として勤務させていただきますので、是非、10回を達成したいと思います。関係者の皆様、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



学校通信

令和7年度 福井工業高等専門学校 卓越した学生の表彰及び第2回学生表彰受賞者一覧

福井工業高等専門学校卓越した学生

物質工学科5年 細井 遥和 環境システム工学専攻2年 岡田 ひなた

校長特別賞

第60回全国高等専門学校体育大会準優勝(団体) 剣道男子

第33回2025全日本ARDF競技大会 クラシック競技3.5MHz帯部門W19クラス2位 機械工学科3年 庄田 実由

第36回全国高等学校アマチュア無線コンテスト 高校マルチオペレータ7MHz部門 優勝(団体) 8連覇 アマチュア無線研究会

第33回2025全日本ARDF競技大会 クラシック競技144MHz帯部門W19クラス2位 電気電子工学科3年 野村 梨帆

校長賞

こども家庭庁 令和7年度第3回「未来をつくるこどもまんなかアワード」こども・若者活動奨励賞 環境都市工学科2年 横井 月美

ふくいソフトウェアコンペティション2025 ふくいソフトウェア大賞 電子情報工学科4年 新河戸 絢仁 電子情報工学科4年 山本 大誠 電子情報工学科4年 南 裕翔 電子情報工学科4年 山内 章悟

第49回有機電子移動化学討論会 優秀ポスター賞 環境システム工学専攻2年 丸山 和香

全国高等専門学校デザインコンペティションでざこん2025 ふくいAMデザイン部門審査員特別賞 生産システム工学専攻1年 品川 涼 生産システム工学専攻1年 増田 光佑

令和6年度材料技術研究協会 学生論文賞 環境システム工学専攻2年 岡田 ひなた

第58回全国高等専門学校サッカー選手権予選北信越大会 最優秀選手賞 電子情報工学科5年 山口 羽琉

第60回北陸地区高等専門学校体育大会優勝及び第60回全国高等専門学校体育大会水泳競技(個人)

【陸上部】

- 機械工学科3年 酒井 康輔 (男子砲丸投 優勝、男子円盤投 優勝)
機械工学科3年 城下 太秀 (男子走幅跳 優勝)
電子情報工学科3年 高見 涼平 (男子走高跳 優勝)
電子情報工学科1年(F3) 三原 直紀 (男子やり投 優勝)
物質工学科1年(F4) 吉田 奈央 (女子800m 優勝)

【テニス部】

- 環境都市工学科4年 中司 瑞希 (女子ダブルス 優勝)
環境都市工学科3年 山嵜 音葉 (女子ダブルス 優勝)

【剣道部】

- 電気電子工学科2年 伊藤 彬 (男子個人 優勝)

【水泳部】

- 電気電子工学科5年 谷口 柁弥 (200m自由形 優勝) (200m自由形3位(全国高専体育大会))
機械工学科3年 田中 優 (4x100mフリーリレー 優勝)
機械工学科3年 藤井 一楓 (200m個人メドレー 優勝、100mバタフライ 優勝)
機械工学科3年 森 蓮 (200m平泳ぎ 優勝)
電気電子工学科3年 本間 詩也 (50m自由形 優勝)
電子情報工学科3年 岩田 真弥 (100m自由形 優勝、4x100mフリーリレー 優勝)
物質工学科3年 谷水 誠之介 (4x100mフリーリレー 優勝)
環境都市工学科1年(F5) 青木 彪流 (400m自由形 優勝)
環境都市工学科1年(F4) 島津 昊太 (100m平泳ぎ 優勝、4x100mフリーリレー 優勝)

第58回全国高等専門学校サッカー選手権予選北信越大会優勝

サッカー部

第60回北陸地区高等専門学校体育大会優勝(団体)

バレーボール女子

ロボットコンテスト2025 東海北陸地区大会デザイン賞

福井高専Aチーム

TOEICにおける成績優秀者

- 生産システム工学専攻1年 小川 賢仁
生産システム工学専攻1年 辻 大知
電子情報工学科5年 西浦 祐生
電子情報工学科1年(F2) 鈴木 悠生

【奨励賞】

第 60 回北陸地区高等専門学校体育大会

【陸上部】

電気電子工学科 4年	明新 泰河 (男子 800m 3位)
電子情報工学科 4年	新河戸 絢仁 (男子 走高跳 2位)
物質工学科 4年	森下 凌 (男子 やり投 2位)
物質工学科 3年	前田 明里 (女子 800m 3位)
環境都市工学科 3年	玉木 湧 (男子 1500m 2位)
機械工学科 2年	廣瀬 詩乃 (女子 800m 2位)
環境都市工学科 2年	齊藤 晴斗 (男子 走幅跳 3位)
環境都市工学科 2年	播磨 祐吾 (男子 砲丸投 3位)
物質工学科 1年 (F3)	笠原 夏葵 (女子 砲丸投 3位)

【テニス部】

電子情報工学科 3年	南部 匠成 (男子 個人ダブルス 3位)
物質工学科 3年	森川 義仁 (男子 個人ダブルス 3位)

【卓球部】

電気電子工学科 5年	佐原 瑞希 (男子 個人ダブルス 3位)
機械工学科 5年	森下 佑平 (男子 個人ダブルス 3位)

【バドミントン部】

電気電子工学科 4年	小野 有史郎 (男子 ダブルス 2位)
機械工学科 3年	畑 遼哉 (男子 ダブルス 2位、男子 シングルス 3位)
環境都市工学科 3年	笈 智樹 (男子 ダブルス 3位)
環境都市工学科 1年 (F3)	明城 一翔 (男子 ダブルス 3位)
電気電子工学科 3年	新井 紫温 (女子 ダブルス 2位)
環境都市工学科 3年	谷口 結希乃 (女子 ダブルス 2位、女子 シングルス 2位)
物質工学科 5年	細井 遥和 (女子 ダブルス 3位)
環境都市工学科 5年	杉田 涼香 (女子 ダブルス 3位)

【剣道部】

機械工学科 1年 (F5)	荒川 祥慶 (男子 個人 2位)
機械工学科 4年	宮田 慈生 (男子 個人 3位)

令和 7 年度福井県高等学校秋季少林寺大会
最優秀賞 (女子 単独演武)

物質工学科 1年 (F1) 境口 万梨花

第 33 回 2025 全日本 ARDF 競技大会
クラシック競技 3.5MHz 帯部門 W 19 クラス 4 位

電子情報工学科 2年 鈴木 咲耶

TOEIC における成績優秀者

生産システム工学専攻 1年	遠藤 駿介
環境システム工学専攻 2年	富原 颯太
環境システム工学専攻 2年	増田 悠雅
機械工学科 5年	成實 柗哉
電子情報工学科 5年	東 菜々花



部・同好会の紹介

部活動として体育部が18、文化部が8、同好会が13あり、幅広い分野で活発な活動が行なわれています。

体育部 バレーボール部



バレーボール部は、経験者も初心者も関係なく、楽しく活動しています。去年の北陸地区高専大会では、男子は準優勝、女子は優勝することができました。現在は全国高専大会を目指して日々練習に励んでいます。

指導教員 金田 直人、土田 怜、高橋 奨、西 仁司、松浦 徹

体育部 ソフトボール部



ソフトボール部は、週2・3回程度で練習しています。初心者・経験者関係なく全員で楽しく練習・試合を行っています。また、北信越大会や中日本大会にも出場しています。ソフトボールに少しでも興味のある方はぜひ来てみてください。

指導教員 田安 正茂、辻子 裕二、森田 海、山田 健太郎

文化部 吹奏楽部



吹奏楽部は40名程度で活動しています。学校行事での演奏も多いですが、吹奏楽コンクールにも出場し、今年度からは定期演奏会を始めることになりました。興味があれば演奏会や高専祭、部活の見学に来てください。

指導教員 福嶋 宏之、森 貞、濱住 啓之、荒川 正和、白崎 恭子

文化部 アマチュア無線研究会



アマチュア無線技士の国家資格を取得し、電話、電信、デジタル通信などを駆使して国内・世界と交信しています。また、野外での電波を受信しながらのオリエンテーリングである ARDF 競技にも参加しています。

指導教員 東 章弘、波多 浩昭、斉藤 徹、松井 一洋、久保 杏奈

同好会 茶道同好会



茶道同好会は現在10名で活動しています。お茶を通じて礼儀作法や豊かな心を育める、自分磨きにぴったりの場所です。経験問わず、誰でも気軽に楽しめます。まずは見学から始めてみませんか？

指導教員 坂元 知里

同好会 フットサル同好会



フットサル同好会は、毎週月曜と木曜の夜7時～9時に活動しています。みんなで楽しくゲームをすることが中心で、雰囲気大切に“参加しやすい”同好会です。初心者も経験者も大歓迎！運動不足解消や気分転換にもピッタリなので、興味があればぜひ気軽に遊びに来てください！

指導教員 高久 有一

その他の部・同好会一覧

体育部門

- 陸上
- 卓球
- 男子バスケットボール
- 女子バスケットボール
- ラグビー
- サッカー
- 野球
- バドミントン
- テニス
- ソフトテニス
- 剣道
- ハンドボール
- 少林寺拳法
- 水泳
- 合気道
- 軟式野球

文化部門

- 英語
- モダンミュージック
- 囲碁・将棋
- ロボット
- 放送・メディア研究会
- 建築構造デザイン

同好会

- サイエンスクラブ
- ダンス
- 音鍵研究会
- 折り紙
- 珈琲
- プログラミング研究会
- 書道
- 文芸
- 美術
- アントレプレナーシップ
- 写真・映画同好会

令和7年度 学校行事写真



第2回校長表彰・校長訓示①



第2回校長表彰・校長訓示②



留学生との懇談会①



留学生との懇談会②



キャリア教育セミナー①



キャリア教育セミナー②



ガリレオコンテスト・卵コンテスト



合同発表会



JOINT フォーラム 2025 ①



JOINT フォーラム 2025 ②



税と社会保障講座



成人年齢引き下げ講座

編集後記

私が本学に来てから、はや2年が過ぎようとしています。あっという間に過ぎた心地がいたします。卒業生の皆さんはいかがだったでしょうか？これまで長かったでしょうか、短かったでしょうか。いずれに感じてもこの学校での出会い、友達は一生涯の宝だと心に刻んでください。

在校生の皆さんも間もなく新年度です。勉強に、遊びに向かって、気持ちを引き締め新たな学生生活に向かってください。ワクワクすることが待っていますように。
(野元)

青武台だより

独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校
発行日：令和8年3月13日



福井工業高等専門学校
〒916-8507 福井県鯖江市下司町
TEL：0778-62-1111